

諏訪の景気動向

平成25年 2月

(平成25年 1月末 D・I調査)

平成25年 2月22日

岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成 25 年 1 月末）

「平成 25 年 1 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

諏訪地方 173 社のご協力を得て行った平成 25 年 1 月末の「景気動向調査(DI調査)」では、回答全社の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 39.3$ となり、前回調査時(平成 24 年 10 月末、以下同)の $\Delta 32.6$ から、さらに 6.7 ポイント悪化した。製造業の業況判断DIは $\Delta 39.2$ と、前回調査時の $\Delta 42.9$ から 3.7 ポイント改善したが、低水準が続く。非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIは、観光業の季節要因もあり $\Delta 39.6$ と前回調査時の $\Delta 4.3$ から 35.3 ポイント悪化した。一方、「3ヶ月後」の業況予想DIは、製造業が 6.1(前回調査時 $\Delta 34.9$)、非製造業が 13.9(前回調査時 $\Delta 36.9$)となり、回答全社では 8.1 となった。

製造業の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 39.2$ と、前回調査時からはやや改善した。しかし、「前年同期」と比べた業況判断DIは $\Delta 55.3$ と、前回の $\Delta 43.6$ より悪化している。業種別の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIでは、「輸送用機械」が $\Delta 56.3$ (前回 $\Delta 46.7$)、「精密機械」が $\Delta 27.3$ (前回 $\Delta 25.0$)、「金属製品」は $\Delta 50.0$ (前回 $\Delta 41.7$)と前回より落ち込み、「電気機械」は $\Delta 15.4$ (前回 $\Delta 66.7$)、「一般機械」は $\Delta 41.9$ 前回($\Delta 45.1$)と改善した。一方、「3ヶ月後」の業況予想DIは 6.1 とプラスに転じ、「3ヶ月後」の受注予想DIも 6.1 で、前回調査時の $\Delta 37.1$ から大幅改善となった。足元の厳しさは変わらないが、円安、株高傾向などで改善を見込む企業が多い。

総体的には、円高の影響やデフレ心理は和らぎつつある。ヒアリング調査では「円安の影響は多大」とする声もあるが、多くは自社への波及は時間がかかるとみて、春ごろからの本格的な景気回復を期待する。業界の動きによって、増産や新規受注に対応するために機械設備増設を計画する企業がある反面、休業体制を続ける企業もある。一方で、「材料費の値上がりが続き、収益性を圧迫している」という声があり、取引先から材料費値上げの打診を受けた下請企業もある。「円安はプラスマイナスゼロ」という声もあった。

商業の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「横這い」の企業が 35.7%と前回調査時(64.3%)より減少し、「好転」と「悪化」企業がそれぞれ 14.3%増加して、同DIは前回と同じ $\Delta 21.5$ となった。1月は原油高や円安、厳しい寒さによる需要増などでガソリンや灯油が高騰し、葉物野菜も生育遅れで値上がりした。家電はスマートフォンやタブレットが他のデジタル製品の需要を吸収する傾向がある。自動車販売は、諏訪地方の1月の車庫証明件数(軽自動車除く)は 808 台で、前年同月比で 77 台($\Delta 8.7\%$)減少したが、前月比では 12 台(1.5%)の増加となった。「3ヶ月後」の業況判断DIは、「好転」を予想する企業が 28.6%、「横這い」は 57.1%で同DIは 14.3 と、前回調査時($\Delta 28.6$)より改善している。

観光・サービス業は、「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 58.8$ で、観光の端境期でもあり前回調査時(0.0)から大幅悪化した。「前年同期」と比べた業況判断DIは $\Delta 29.5$ と、前回調査時の 16.6 から 46.1 ポイント悪化した。冬の観光は 2 季連続の御神渡りが話題を集めた一方、笹子トンネル事故の影響が残る中で、大雪が追い討ちをかけた。老舗旅館の不振もあった。諏訪湖周辺のホテル、旅館の宿泊客数は施設によって増減区々で前年同月比 80%台~130%となった。笹子トンネル事故の影響でスキー、スノーボード客が

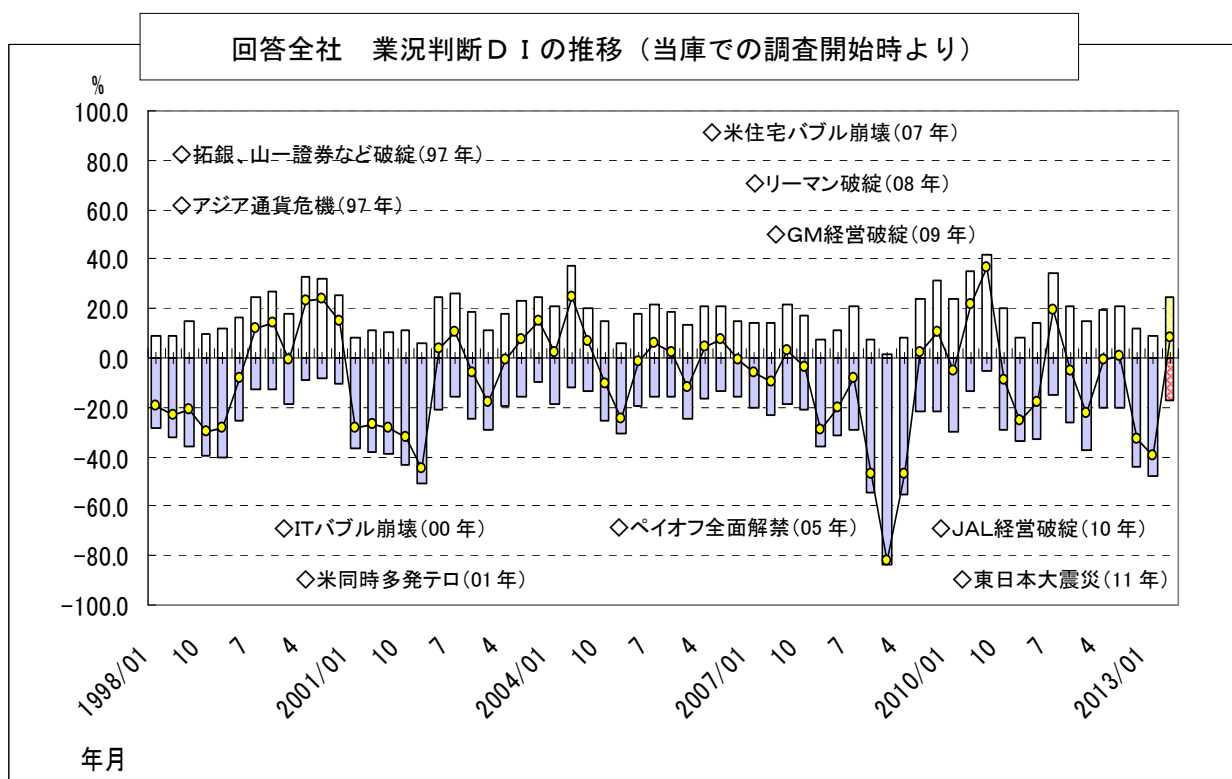
減少した施設もあった。「3ヶ月前」と比べた稼働率DIは△64.7と、前回調査時(0.0)から大幅悪化した。春の観光シーズンに向かう「3ヵ月後」の業況予想DIは23.5とプラスになっている。

建設業の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、△33.3と前回調査時の7.2から悪化した。「好転」企業はなく、「横這い」企業が66.7%となった。受注状況DIは「3ヶ月前」と比べて△33.4、「前年同期比」で△25.0となっている。「3ヶ月後」の予想は業況、受注とも「好転」と「悪化」の企業数が同じで0.0となっている。

諏訪地方の平成24年12月の新設住宅着工戸数は95戸と、前年同月の90戸に比べ5戸(5.6%)の増加となった。利用関係別では貸家が増加し、持家が減少した。また、平成24年4月～平成24年12月の累計着工戸数は833戸で、前年同期累計比では28戸(△3.3%)の減少となった。

1月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は22件335百万円で、平成24年4月～25年1月の累計は164件、3,743百万円となり前年同期累計比2件減、金額は19.7%増となった。

雇用状況は、平成24年12月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月比0.03ポイント減少の0.73倍となり、長野県の0.81倍、全国の0.82倍を下回った。全国や県が上昇する中で諏訪は3ヶ月連続で減少し、厳しい状況となっている。新規求人数(全数)は1,124人で前年同月比48人(△4.1%)の減少、新規求職者数は939人で前年同月比156人(△14.2%)の減少となっている。産業別の前年同月比の新規求人数は、建設業が23.5%、卸・小売業が14.3%とそれぞれ増加したが、飲食店・宿泊業で25.6%、製造業では25.0%減少した。また、1件10人以上の人員整理は2件116人で、事業主都合による雇用保険資格喪失者は150人と前年同月より67人増加、前月より39人増加した。



業況判断DIの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社(173社)の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは「好転」企業が8.7%、「横這」企業が43.4%、「悪化」企業が48.0%で同DIは△39.3と、前回調査時の△32.6から6.7ポイントの悪化となった。リーマンショックの影響を受けていた平成21年4月調査時(△47.1)に次ぐ水準だった前回より、さらに悪化した。昨年12月からの円安、株高の環境変化で企業マインドの改善はみられるが、自社への波及はまだ先と見る企業が多い。また、急激な円安による輸入資材コストの上昇を懸念する声も上がっている。

前回比で製造業は、「好転」企業が8.7%から7.7%、「悪化」企業は51.6%から46.9%とそれぞれ減少した。非製造業は「好転」企業が19.6%から11.6%へ減少し、「悪化」企業は23.9%から51.2%へ増加した。

産業別業況表

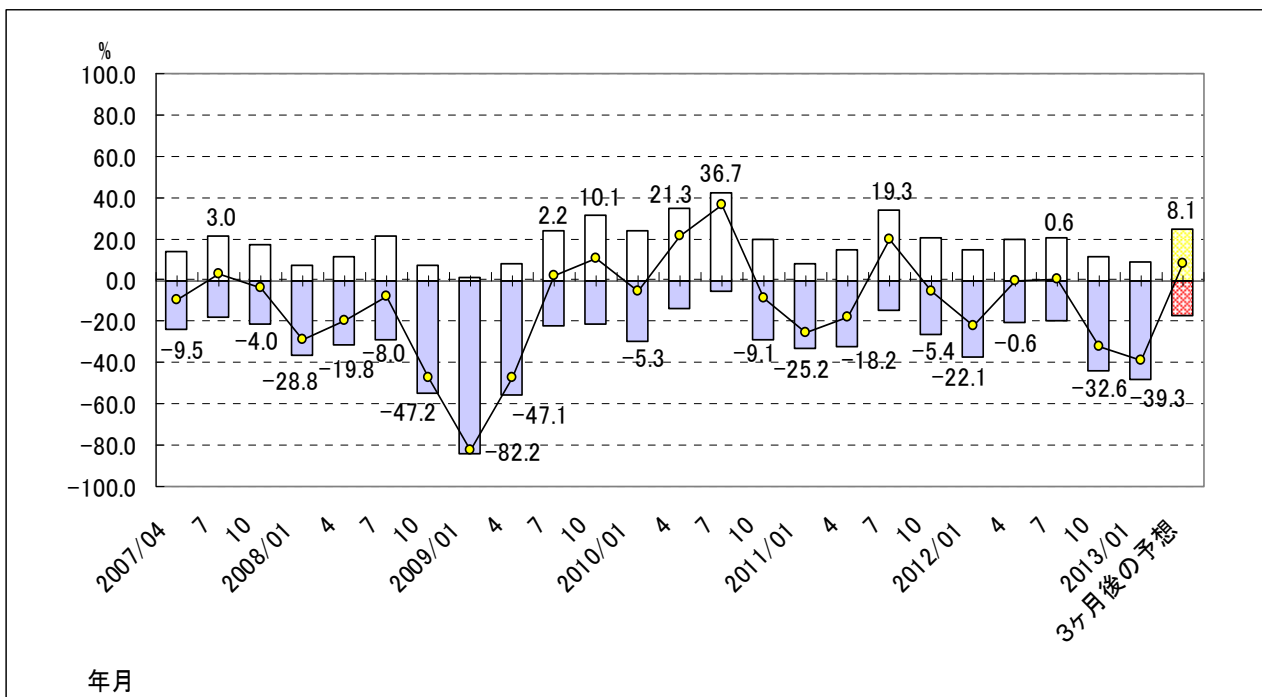
(企業数・%) 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	173	8.7	43.4	48.0	-39.3	173	11.6	28.3	60.1	-48.5	173	24.9	58.4	16.8	8.1
製造業	130	7.7	45.4	46.9	-39.2	130	8.5	27.7	63.8	-55.3	130	23.8	58.5	17.7	6.1
非製造業	43	11.6	37.2	51.2	-39.6	43	20.9	30.2	48.8	-27.9	43	27.9	58.1	14.0	13.9
商業(大型店)	14	21.4	35.7	42.9	-21.5	14	35.7	7.1	57.1	-21.4	14	28.6	57.1	14.3	14.3
建設業	12	0.0	66.7	33.3	-33.3	12	8.3	50.0	41.7	-33.4	12	16.7	66.7	16.7	0.0
観光・サービス	17	11.8	17.6	70.6	-58.8	17	17.6	35.3	47.1	-29.5	17	35.3	52.9	11.8	23.5

自社業況判断DIの推移

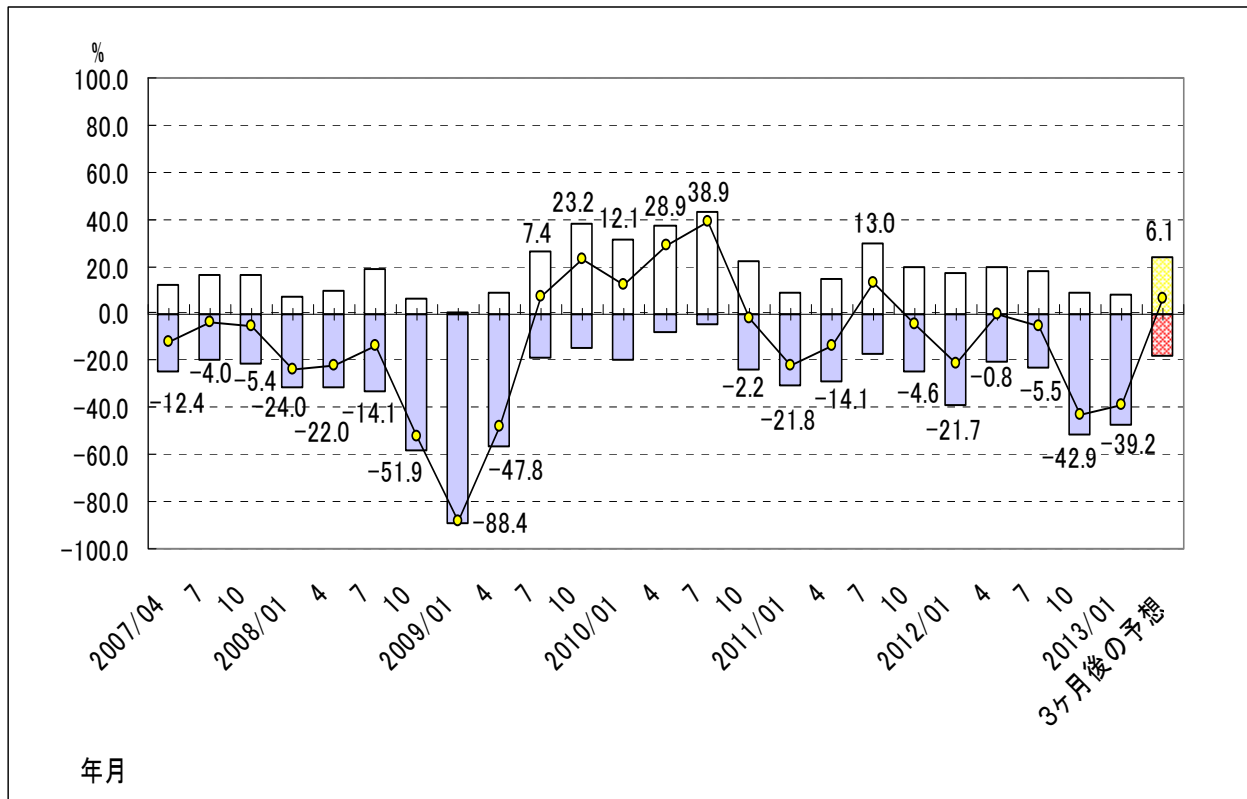
● 回答全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-1



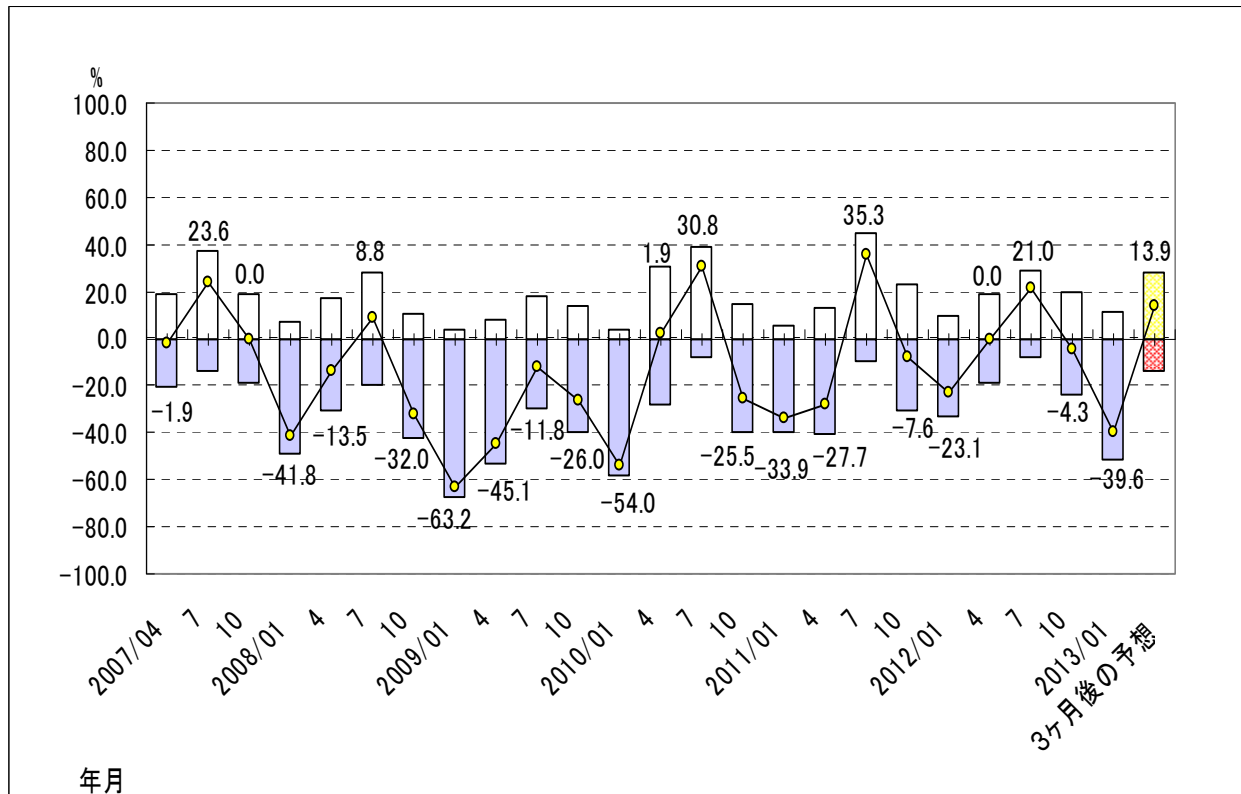
●製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



産業別景気動向

1. 製造業

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは「好転」企業7.7%、「悪化」企業46.9%で同DIは△39.2と、前回調査時の△42.9から3.7ポイント改善した。「前年同期」と比べた業況判断DIは△55.3で、前回調査時の△43.6から11.7ポイント悪化している。「3ヶ月後」の業況予想DIは6.1で、「好転」企業23.8%に対して、「悪化」企業が17.7%となり、前回調査時の△34.9から41.0ポイント改善した。

収益性DIは「3ヶ月前」との比較では△40.8と前回調査時の△42.1からやや改善した。「3ヶ月後」の収益性予想DIは△3.8で、前回(△39.6)より35.8ポイント改善している。

受注状況DIは「3ヶ月前」と比べて△41.5と、前回調査時の△43.5から2.0ポイント改善した。「3ヶ月後」の受注予想DIでは「好転」企業26.9%、「悪化」企業20.8%で同DIは6.1と、前回調査時の△37.1から改善している。

規模別の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「1～29人企業」は△36.8、「30～99人企業」が△53.6、「100人以上企業」は△19.1となった。前年同期比でも全ての規模で大幅悪化した。これに対し、「3ヶ月後」の予想DIは「1～29人企業」が△7.4で水面下だが、前回の△47.0からマイナス幅が大幅に縮小した。大手に比べ、景気回復の波及に時間差がある小規模企業にも好転予想が増加している。また、「30～99人企業」も22.0(前回△27.0)、「100人以上企業」は19.0(前回△13.0)とプラスに転じている。

業種別(主要5業種)の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIでは、「電気機械」以外は前回より悪化した。前年同期比でも「金属製品」「一般機械」「精密機械」で悪化幅が広がっている。一方、「3ヶ月後」の業況予想DIは、「一般機械」はわずかにマイナス予想が上回るものの、それ以外は「好転」を見込む企業が増え、水面下を脱している。円安、株高の影響が春ごろから表れ、受注が増加すると見込む企業が増えている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	130	7.7	45.4	46.9	-39.2	130	8.5	27.7	63.8	-55.3	130	23.8	58.5	17.7	6.1	
規模	1～29人	68	8.8	45.6	45.6	-36.8	68	5.9	30.9	63.2	-57.3	68	13.2	66.2	20.6	-7.4
	30～99人	41	4.9	36.6	58.5	-53.6	41	9.8	24.4	65.9	-56.1	41	36.6	48.8	14.6	22.0
	100人～	21	9.5	61.9	28.6	-19.1	21	14.3	23.8	61.9	-47.6	21	33.3	52.4	14.3	19.0
分類	金属製品製造業	14	0.0	21.4	78.6	-78.6	14	0.0	14.3	85.7	-85.7	14	28.6	64.3	7.1	21.5
	一般機械器具製造業	31	9.7	48.4	41.9	-32.2	31	6.5	35.5	58.1	-51.6	31	22.6	51.6	25.8	-3.2
	電気機械器具製造業	26	23.1	42.3	34.6	-11.5	26	11.5	26.9	61.5	-50.0	26	30.8	61.5	7.7	23.1
	輸送用機械器具製造業	16	0.0	37.5	62.5	-62.5	16	12.5	18.8	68.8	-56.3	16	25.0	50.0	25.0	0.0
	精密機械器具製造業	11	0.0	72.7	27.3	-27.3	11	18.2	45.5	36.4	-18.2	11	18.2	72.7	9.1	9.1

① 諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

● 金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 78.6$ で「好転」した企業がなく、前回調査時の $\Delta 61.5$ から17.1ポイント悪化した。「前年同期比」の業況判断DIも前回から24.2ポイント悪化幅が拡大した。逆に「3ヶ月後」の業況予想DIは「悪化」予想が大幅に減り21.5となっている。1月は低調で利幅も減ったとする企業の一方で、依頼件数や生産数量の上方修正があり、全体的に受注が増加する気配と見る企業もある。

● 一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 32.2$ で、「好転」企業9.7%に対し、「悪化」企業は41.9%となった。「前年同期比」の業況判断DIも $\Delta 51.6$ だった。「3ヶ月後」の予想DIは「好転」企業22.6%、「悪化」企業25.8%で $\Delta 3.2$ と前回の $\Delta 45.1$ から41.9ポイント改善している。完成品を輸出する企業は円安が売り上げ増加に貢献しているが、増産に結びつかず、現状は受注が横這いの企業も多い。

● 電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 11.5$ と、前回調査時の $\Delta 68.0$ から大幅改善した。ただ「前年同期」比では前回の $\Delta 52.0$ から $\Delta 50.0$ と2.0ポイントの改善となっているが、依然低水準が続いている。一方、「3ヶ月後」の業況予想DIは23.1で、「好転」企業が30.8%、「悪化」企業は7.7%となった。基板関係は総じて低調に推移している。材料費の値上がり収益性を圧迫している企業もある。

● 輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 62.5$ で、前回調査時の $\Delta 53.3$ から9.2ポイント悪化した。「好転」企業がなく、「悪化」企業が増えている。「前年同期比」の業況判断DIは $\Delta 56.3$ で前回の $\Delta 66.7$ からは10.4ポイント改善している。「3ヶ月後」の業況予想DIは「好転」企業と「悪化」企業の割合が同率で0.0となっている。主要市場の動向に左右されるが、春ごろからの本格的な回復が期待されている。

● 精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 27.3$ で「好転」企業がなく、前回調査時の $\Delta 25.0$ からやや悪化している。「前年同期比」の業況判断DIでも悪化企業が多く、 $\Delta 18.2$ で前回の0.0から悪化した。「3ヶ月後」の業況予想DIは「好転」企業が18.2%、「悪化」企業9.1%の9.1となっている。光学、カメラ関連の受注は減少傾向が続く。医療機器関連は堅調に推移している。

② 規模別業況

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「1～29人」規模が $\Delta 36.8$ 、「30～99人」規模が $\Delta 53.6$ 、「100人以上」規模が $\Delta 19.1$ だった。「前年同期比」は「1～29人」規模が $\Delta 57.3$ 、「30～99人」規模が $\Delta 56.1$ 、「100人以上」規模が $\Delta 47.6$ だった。「3ヶ月後」の業況予想DIは、「1～29人」規模は $\Delta 7.4$ 、「30～99人」規模が22.0、「100人以上」規模は19.0となっている。

③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた受注状況は「増加」企業 10.8%、「減少」企業 52.3%で同DIは△41.5と、前回調査時の△43.5からやや改善したが、「前年同期比」では△45.2から△57.7と悪化した。「3ヶ月後」の受注予想DIは6.1で「増加」企業 26.9%、「減少」企業 20.8%と、前回の△37.1から大幅改善している。

規模別の受注状況DIは、「3ヶ月前」と比べて「1～29人企業」は△36.8で、前回調査時の△47.7から改善した。「30～99人」企業は△53.7と前回の△48.7からマイナス幅が拡大した。「100人以上」は△33.3で前回調査時の△22.8から悪化した。また、「前年同期比」の同DIでは「1～29人」が△61.8で前回の△52.3から悪化し、「30～99人」も△53.6と前回の△46.0から悪化した。「100人以上」でも△52.4と前回の△22.7から悪化している。一方、「3ヶ月後」の受注予想では「1～29人企業」は△10.3で減少予想企業が上回るものの、前回の△55.4から改善し、「30～99人」は26.8とプラスに転じた。「100人以上」も19.0と前回の0.0から改善し、増加予想が上回っている。

業種別(主要5業種)では、「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは、前回5業種中最も悪化した「一般機械」は前回の△45.1から△41.9とやや改善した。また、「電気機械」は△66.7から△15.4へ改善した。反面、「精密機械」は△25.0から△27.3、「金属製品」は△41.7から△50.0、「輸送用機械」は△46.7から△56.3と、それぞれマイナス幅が拡大した。

「前年同期比」のDIでは、「金属製品」は△58.4から△85.7、「一般機械」が△35.5から△61.2、「輸送用機械」が△60.0から△62.5、「精密機械」は△16.6から△27.3へとそれぞれ悪化した。「電気機械」は△50.0から△46.1とやや改善した。

「3ヶ月後」の予想DIは「金属製品」は前回の△58.4から28.6、「電気機械」が0.0から23.1、「一般機械」が△51.6から3.2、「輸送用機械」は△46.7から0.0、「精密機械」は△58.3から0.0と、全業種で増加を予想する企業が多くなっている。

業種別・規模別受注状況表

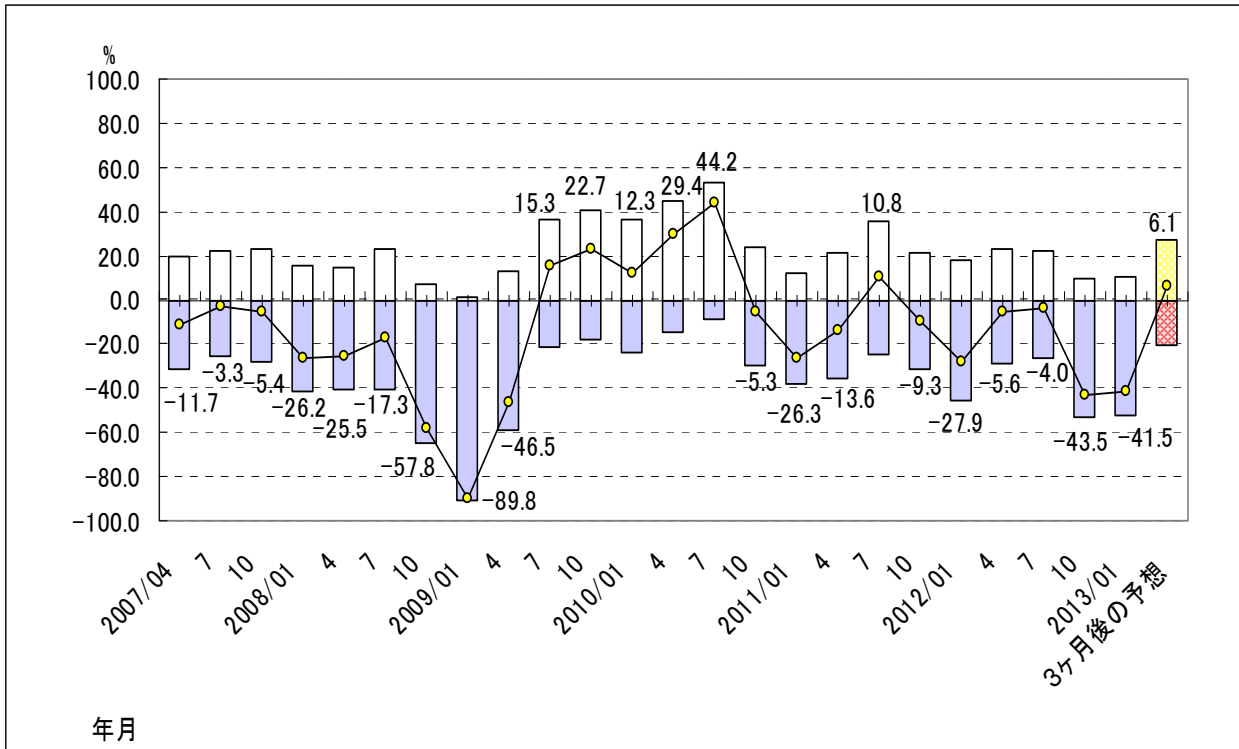
表-3

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	130	10.8	36.9	52.3	-41.5	130	7.7	26.9	65.4	-57.7	130	26.9	52.3	20.8	6.1	
規模	1～29人	68	14.7	33.8	51.5	-36.8	68	4.4	29.4	66.2	-61.8	68	14.7	60.3	25.0	-10.3
	30～99人	41	7.3	31.7	61.0	-53.7	41	9.8	26.8	63.4	-53.6	41	43.9	39.0	17.1	26.8
	100人～	21	4.8	57.1	38.1	-33.3	21	14.3	19.0	66.7	-52.4	21	33.3	52.4	14.3	19.0
分類	金属製品製造業	14	7.1	35.7	57.1	-50.0	14	0.0	14.3	85.7	-85.7	14	35.7	57.1	7.1	28.6
	一般機械器具製造業	31	12.9	32.3	54.8	-41.9	31	6.5	25.8	67.7	-61.2	31	29.0	45.2	25.8	3.2
	電気機械器具製造業	26	26.9	30.8	42.3	-15.4	26	15.4	23.1	61.5	-46.1	26	34.6	53.8	11.5	23.1
	輸送用機械器具製造業	16	0.0	43.8	56.3	-56.3	16	6.3	25.0	68.8	-62.5	16	25.0	50.0	25.0	0.0
	精密機械器具製造業	11	0.0	72.7	27.3	-27.3	11	18.2	36.4	45.5	-27.3	11	18.2	63.6	18.2	0.0

製造業の受注状況DIの推移

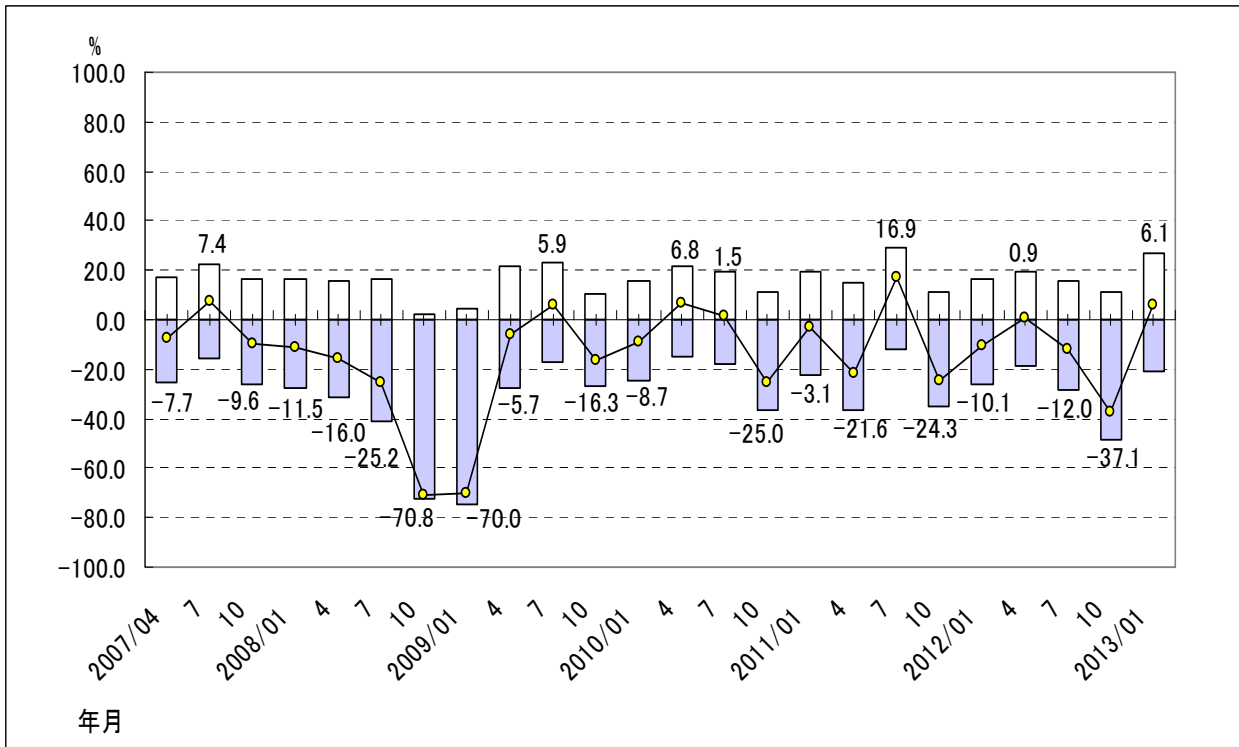
●製造業全社:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



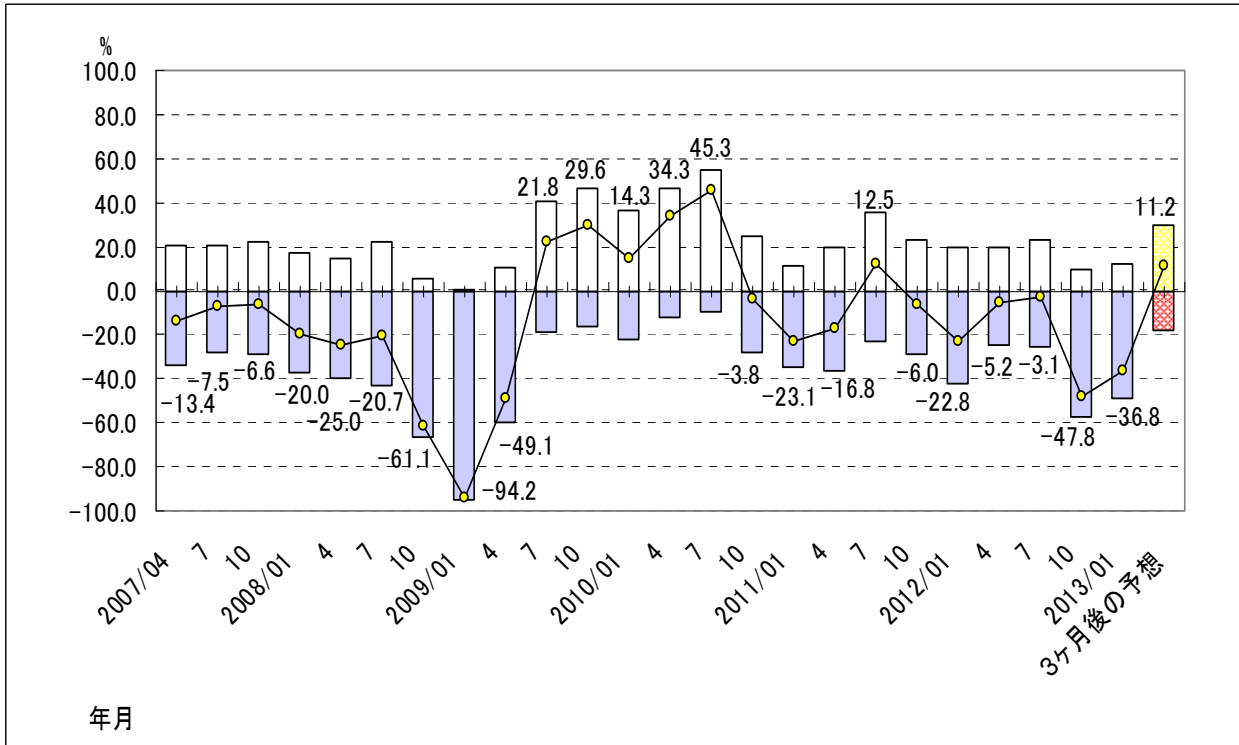
●製造業全社:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



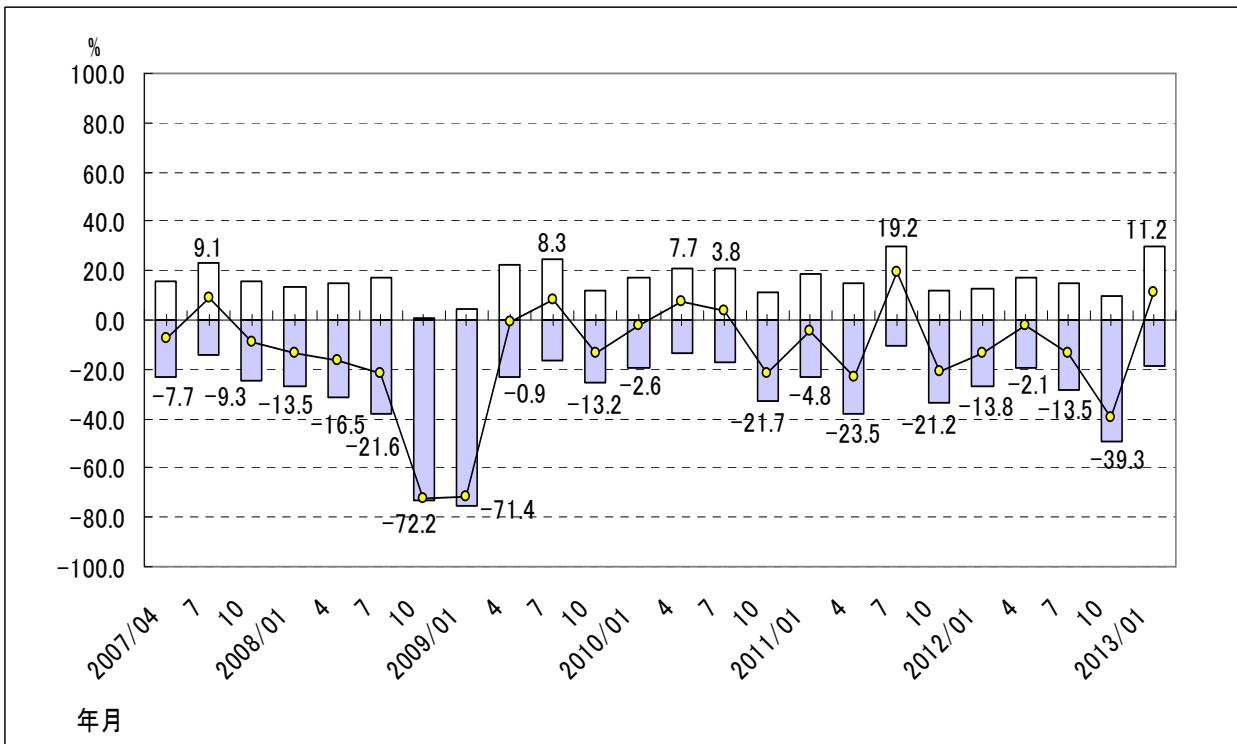
● 製造業 主要 5 業種:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



● 製造業 主要 5 業種:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2.商業・観光サービス業

①商業

諏訪地方の1月の天候は、月平均気温が平年を下回り、積雪量も多く、各店舗の来店客数は雪や寒さの影響で減少傾向だった。「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは△21.5、来店客数DIは△28.6、収益性DIは△28.6で前回と同様な数値で、客単価DIは0.0と前回の△35.8から改善した。「前年同期比」も業況判断DIは△21.4で前回同様となった。「3ヶ月後」の業況判断DIは「好転」予想企業が28.6%あり、14.3となっている。円安、株高などで消費者心理が変化する中で、景気回復による売上が期待されている。

- 食料品 レタス、キャベツ、ハクサイなどの葉物野菜が前年比30%以上高騰し、ジャガイモなどの根菜類は堅調だった。魚、肉の生鮮品は、鍋物の食材として好調に推移した。
- 衣料品 前半は成人式向けが伸び、中旬からは卒業式や入学式向け衣料が出始めた。
- 自動車 安全性を強調する軽自動車为好調。普通車から軽自動車へシフトする高齢者が増えている。
- 家電店 スマートフォンの普及によるコンパクトデジカメの販売が減少傾向となっている。
- ホームセンター 降雪が多く、融雪剤や雪かき用品の売れ行きが伸びた。

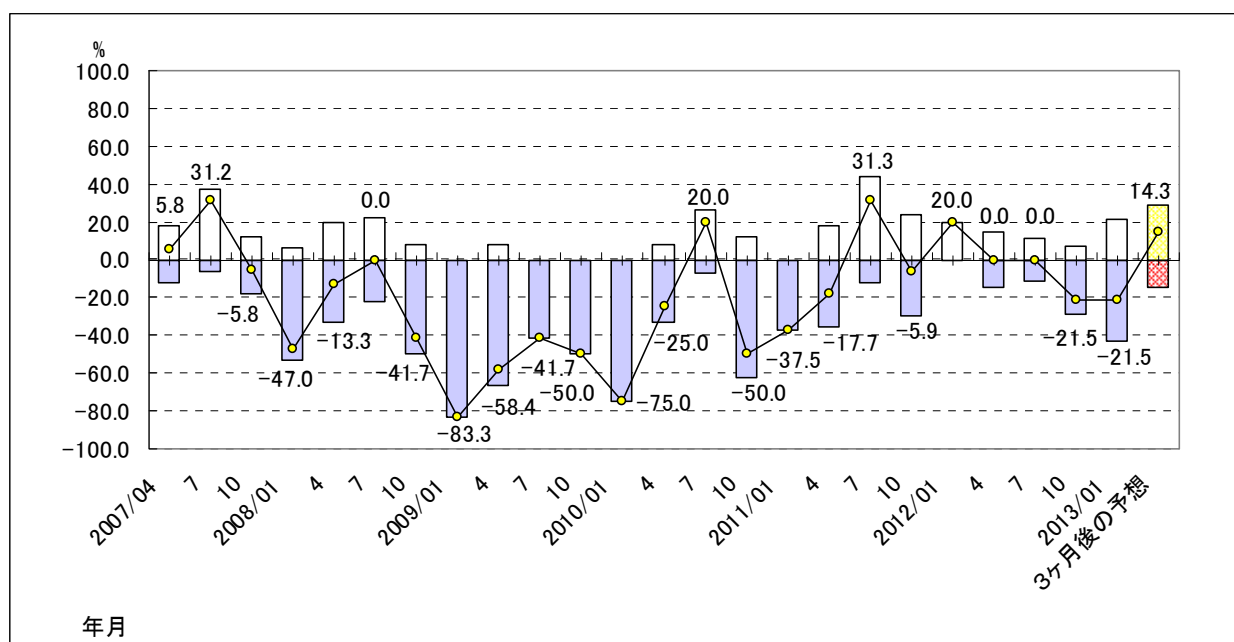
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	14	21.4	35.7	42.9	-21.5	14	35.7	7.1	57.1	-21.4	14	28.6	57.1	14.3	14.3
客単価	14	7.1	85.7	7.1	0.0	14	14.3	64.3	21.4	-7.1	14	0.0	78.6	21.4	-21.4
来店客数	14	7.1	57.1	35.7	-28.6	14	7.1	42.9	50.0	-42.9	14	14.3	71.4	14.3	0.0

●商業全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



②観光・サービス業

「前年同期比」の業況判断DIは△29.5で、前回調査時の16.6から悪化した。客単価DIは△23.5で前回の△5.5から悪化し、宿泊客数も△29.4で前回の△5.5から悪化している。茅野市が観光客減少などで資金繰りが悪化した事業者の支援方針を出すなど、中央道笹子トンネル事故の影響が残る反面、御神渡りは恋愛成就やパワースポットとして全国の注目を集め、ホテルでは記念プランが行われた。「3ヶ月後」の宿泊客数予想DIは5.9、業況予想DIが23.5、客単価予想DIは0.0と、回復を予想する企業が多い。

- 上諏訪温泉 御神渡りで、日帰りの観光施設は週末に来客が増えたものの、宿泊に関しては特別大きな効果は見られなかった。
- 蓼科・白樺湖・車山方面ほか 燃料代などの冬場の経費がかさみ、収益を圧迫し値上げした施設もある。学校関係のスキー合宿は例年通りの所が多い。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた1月の参拝者数は約456千人と、前年同月比約13千人の増加となった。

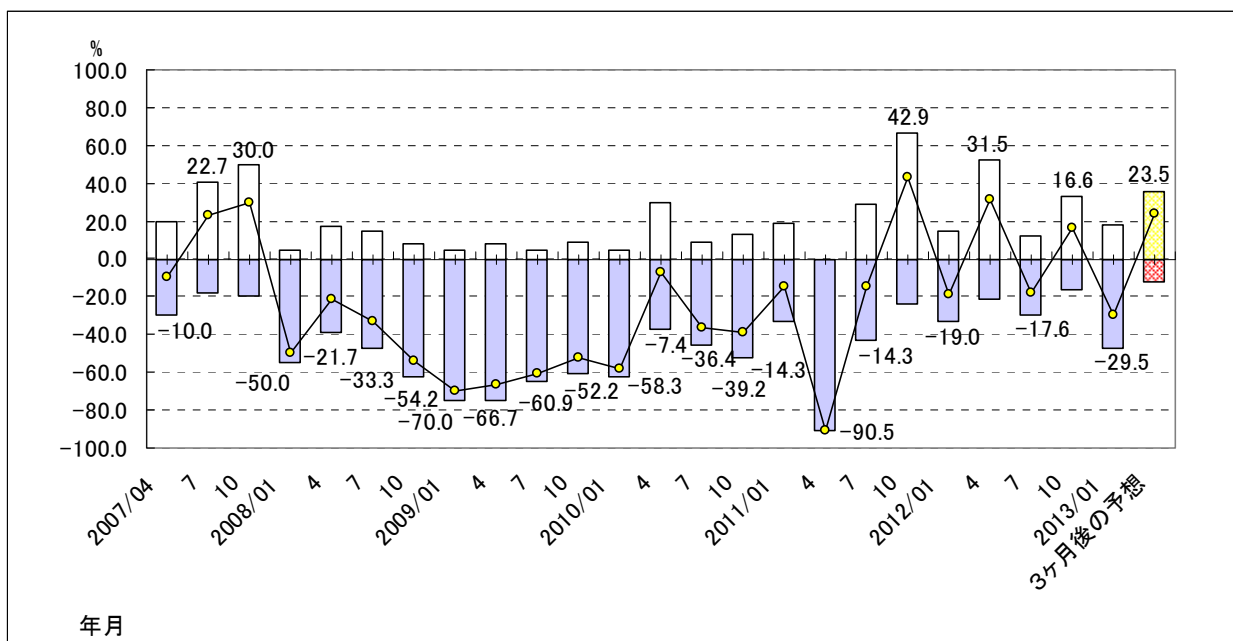
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	17	11.8	17.6	70.6	-58.8	17	17.6	35.3	47.1	-29.5	17	35.3	52.9	11.8	23.5
客単価	17	5.9	35.3	58.8	-52.9	17	11.8	52.9	35.3	-23.5	17	11.8	76.5	11.8	0.0
宿泊客数	17	17.6	0.0	82.4	-64.8	17	23.5	23.5	52.9	-29.4	17	29.4	47.1	23.5	5.9

●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



3.建設業

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて、前回は14.3%あった「好転」企業がなく、同DIは△33.3となった。「前年同期比」も△33.4で前回(△14.3)より悪化した。「3ヶ月後」は「好転」と「悪化」企業の割合が同数の16.7%で同DIは0.0となり、前回の△21.4より改善が予想されている。受注状況、外注発注量のDIも同様となった。このほか、「3ヶ月後」の収益性予想DIは△16.7で、「前年同期」や「3ヶ月前」との比較より「悪化」予想の企業割合が減って「横這」企業が増えている。

●建築工事

諏訪地方の12月の新設住宅着工戸数は95戸で、平成24年1年間の累計着工戸数は1,004戸(岡谷市146戸、諏訪市268戸、茅野市378戸、諏訪郡212戸)となった。また、平成24年4月～12月の累計着工戸数は833戸で前年同期累計比では28戸の減少(△3.3%)となっている。なお、長野県全体の平成24年12月の新設住宅着工戸数は957戸で前年同月比4.8%増と、4ヶ月連続で増加した。

●公共工事

1月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は諏訪建設事務所12件223百万円、林道治山工事関係9件106百万円、その他土木工事1件4百万円だった。

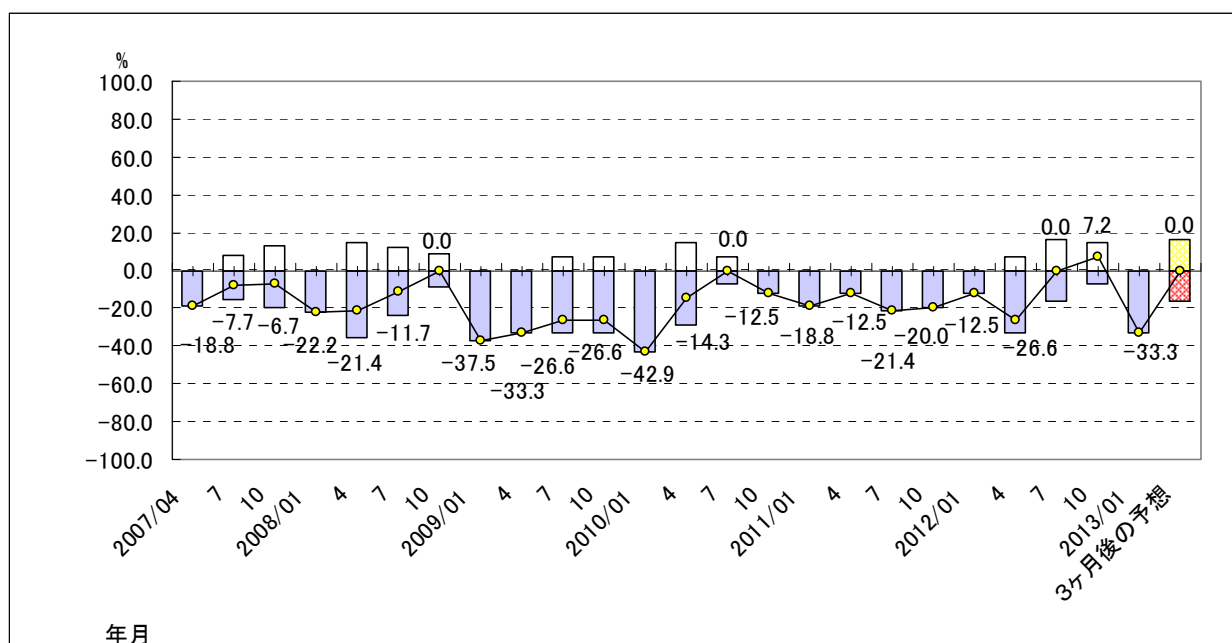
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	12	0.0	66.7	33.3	-33.3	12	8.3	50.0	41.7	-33.4	12	16.7	66.7	16.7	0.0
受注状況	12	8.3	50.0	41.7	-33.4	12	16.7	41.7	41.7	-25.0	12	16.7	66.7	16.7	0.0
外注発注量	12	0.0	83.3	16.7	-16.7	12	8.3	58.3	33.3	-25.0	12	16.7	66.7	16.7	0.0

●建設業全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-10



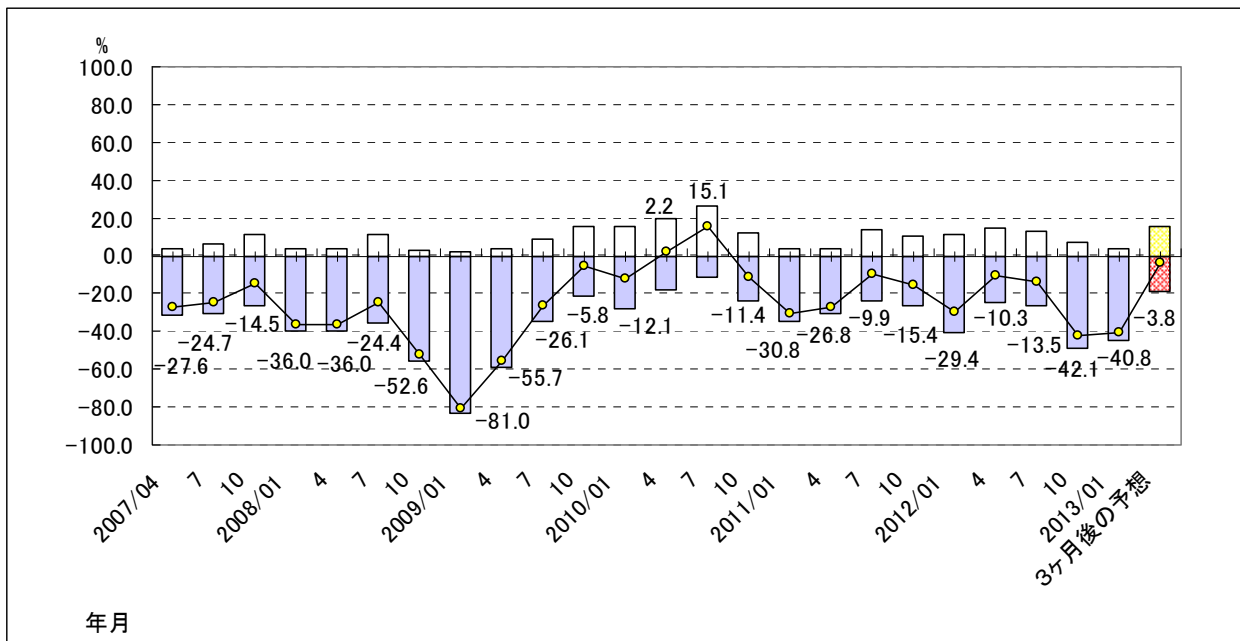
4.収益性状況

回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性は「好転」企業 4.6%、「悪化」企業 44.5%で、同DIは△39.9と前回調査時の△36.0から3.9ポイント悪化した。製造業の「3ヶ月前」と比べた収益性は「好転」企業 3.8%、「悪化」企業 44.6%で同DIは△40.8と前回調査時の△42.1から1.3ポイント改善した。また、「3ヶ月後」の収益性予想DIは△3.8で「悪化」の企業が減少し、前回調査時の△39.6から改善傾向となっている。

非製造業の「3ヶ月前」と比べた同DIも△37.2と、前回調査時の△19.6から17.6ポイント悪化した。「3ヶ月後」のDIは△7.0と、マイナス幅が縮小する見込みとなっている。

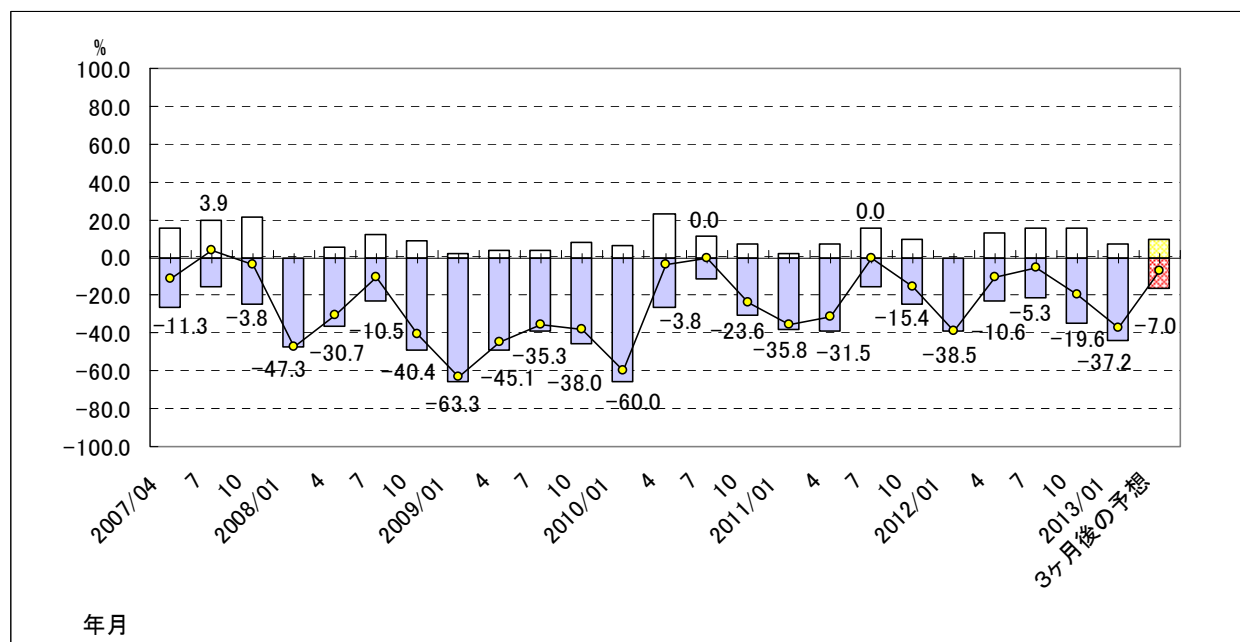
●製造業:3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー11



●非製造業:3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー12



5.経営上の課題

経営上の課題として①製造業は売上減少、資金繰り、競争激化をあげる企業が多く、②商業は、売上減少、競争激化、③建設業は売上減少、競争激化、④観光・サービス業は売上減少、資金繰りなどがあげられている。全体的には、資金繰りをあげる企業が増えている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	117	91	9	7	10
単価引下げ	39	33	0	2	4
競争激化	48	33	8	5	2
資金繰り	47	35	3	1	8
人件費	29	20	3	3	3
労働力確保	12	7	0	2	3

6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【12月】	ハローワーク諏訪	0.73倍	△0.03ポイント	
手形交換高【1月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	8,077枚	△142枚	
	金額	11,229百万円	△621百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	1枚	△4枚
	金額	1,226千円	△611千円	
電力使用量【1月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	86,029 MWh	△0.2%	
	高压電力計	96,445 MWh	△3.2%	
	合計	182,474 MWh	△1.9%	
車庫証明取扱件数【1月】(諏訪地方合計)		808件	△8.7%	
新設住宅着工戸数【H24. 4～24. 12】(諏訪管内)		833戸	△3.3%	

7.調査概要

DI調査:業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

- ①調査期間 平成25年1月末
- ②調査内容 「平成25年1月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想
- ③調査方法 アンケート調査(回答数 下記⑦)及びヒアリング調査(約130社)
- ④対象地域 諏訪地域全域
- ⑤業種 製造業、商業(大型店:売り場面積501㎡以上)、建設業、観光・サービス業
- ⑥回答企業数 173企業
- ⑦回答率 64.8%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	200	20	20	27	267
回答数	130	14	12	17	173